

大腸・肛門外来のご案内

【大腸疾患】

見つけるのが早ければ早いほど、完全に治る(治癒する)確率が高くなります。特に早期のがんでは、90%以上の確率で治癒するとされています。

【主な症状】

①排便の変化

- ・血便(血液の混じった便)がでる ・下血(肛門からの出血)がおきる ・ 便が細くなる
- ・下痢と便秘を繰り返す・便が残っている感じがする

②お腹の変化

- ・お腹が張っていると感じる ・ 腹痛がおきる ・ お腹にしこりがある

③その他の変化

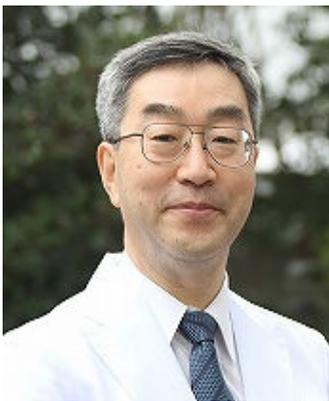
- ・貧血がおきる ・ 嘔吐する ・ 急に体重が落ちている

【肛門疾患】

排便指導や内服薬・座薬を使用した保存的な治療が多いですが、痔核(じかく)、脱肛(だっこう)、裂肛(れっこう)別名:切れ痔、痔瘻(じろう)、肛門部の悪性腫瘍など、早めに状況を見極め、外科的に治療をしなければ治らないことを肛門専門医が判断致します。

【主な症状】

- ①肛門の痛み(ピリピリ ・ チクチク ・ スキズキ)
- ②肛門の腫れ・いぼ
- ③肛門の出血(排便時の新鮮血 ・ 排便に関係ない暗赤色の血液 ・ 黒色便)
- ④肛門のかゆみ・分泌液



【担当医師】

総院長兼がん診療部長
志田 晴彦(しだ はるひこ)

日本大腸肛門病学会専門医、指導医
日本外科学会専門医、指導医
日本消化器外科学会専門医、指導医
日本消化器外科学会消化器がん治療認定
医
日本臨床外科学会評議員、編集委員

当院では、**専門医**による治療(手術)や検査(内視鏡等)を行い大腸疾患から肛門疾患までの早期発見、外科的治療の判断に努めます。

上記の症状などでお困りの方は

新久喜総合病院**大腸・肛門**外来へ